静岡県議会報告
平成25年夏号(年４回発行)

自民改革会議 五輪会(いつわかい)

静岡県議会議員 落合慎悟(おちあい しんご)

7月26日 一般質問

8/28～31福島第一原発事故被害状況視察

8/27に発電所内での汚染発生に伴い、装備品及びスケジュールの変更があった。当初、線量計、手袋、サージカルマスク、靴カバーの予定がゴム手袋、全面マスク、青タイベック着用となり、免震重要棟内の視察は中止。当日の30日朝、Ｊビレッジで事前説明後、ホールボディカウンター（WBC）で入場前被ばく量を確認、タイベック等装備品を着け東電のバスで20km先の第一原発に出発、正門前でスクリーニングをしてバスを乗り換え場内に入った。免震重要棟をバス内で確認、高台に行き、第一原発の全体状況を見た。次に西側4号機、3号機を確認してから東側を4～1号機と視察した。線量は1.7mSvを記録した。その後5、6号機を見て終了。

毎日400ｔ放射能汚染水貯留する全タンクは約930基、灰色がボルト締め型約300基。漏えいが発生。青色は鋼製で容量1,000ｔ。しかし、300ｔは海へ

今回、放射線量計を持参した。原発内は持込み禁止の為測定できなかったが、正門前では0.2μSv程度と低線量だが、2km離れた森林では車内で36.8μSvと超高線量。（写真）
帰宅困難地域は3～5μSvの高線量でチェルノブイリだ。

現在の第一原発上空写真以前森だった場所がタンク設置場所になった。（中央右下部分）
タンクは2日で約１基必要で今後も増え続ける。

Jビレッジで WBCを受ける

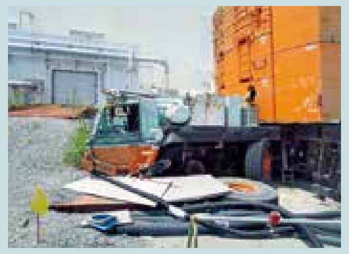
正門手前でスクリーニング

原発正門でチェック

東電のバスで場内を視察

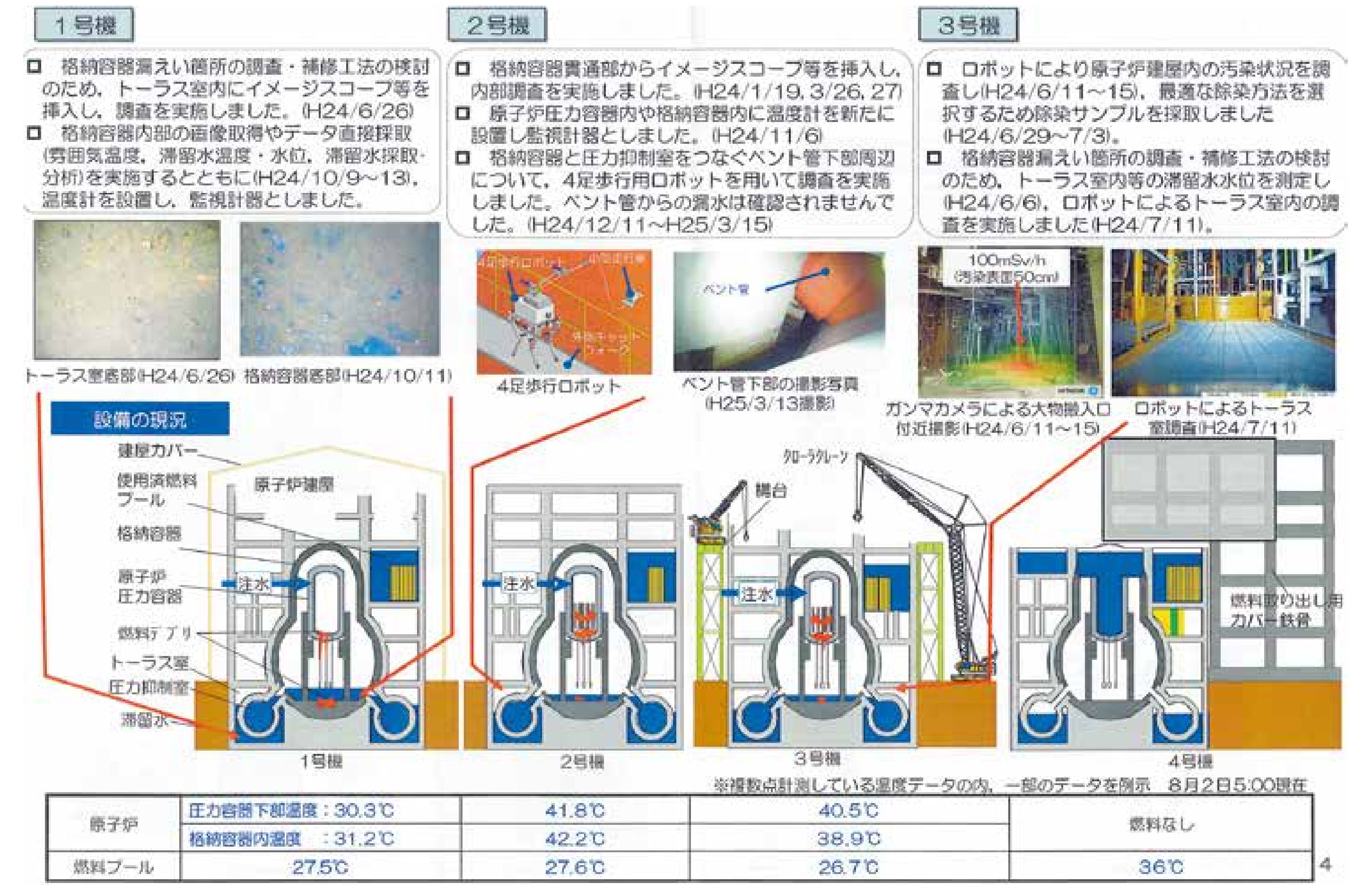
津波被害そのままの状況

1.7mSvと高線量を記録



破壊クレーン車は爆発時？

視察終了後、質問した。



1号機
- □ 格納容器漏えい箇所の調査・補修工法の検討のため、トーラス室内にイメージスコープ等を挿入し、調査を実施しました。（H24/6/26）
- □ 格納容器内部の画像取得やデータ直接採取（雰囲気温度、滞留水温度・水位、滞留水採取・分析）を実施するとともに（H24/10/9～13）、温度計を設置し、監視計器としました。

トーラス室底部（H24/6/26）　格納容器底部（H24/10/11）

2号機
- □ 格納容器貫通部からイメージスコープ等を挿入し、内部調査を実施しました。（H24/1/19, 3/26, 27）
- □ 原子炉圧力容器内や格納容器内に温度計を新たに設置し監視計器としました。（H24/11/6）
- □ 格納容器と圧力抑制室をつなぐベント管下部周辺について、4足歩行用ロボットを用いて調査を実施しました。ベント管からの漏水は確認されませんでした。（H24/12/11～H25/3/15）

4足歩行ロボット

ベント管下部の撮影写真（H25/3/13撮影）

3号機
- □ ロボットにより原子炉建屋内の汚染状況を調査し（H24/6/11～15）、最適な除染方法を選択するため除染サンプルを採取しました（H24/6/29～7/3）。
- □ 格納容器漏えい箇所の調査・補修工法の検討のため、トーラス室内等の滞留水水位を測定し（H24/6/6）、ロボットによるトーラス室内の調査を実施しました（H24/7/11）。

100mSv/h（汚染表面50cm）

ガンマカメラによる大物搬入口付近撮影（H24/6/11～15）

ロボットによるトーラス室調査（H24/7/11）

設備の現況

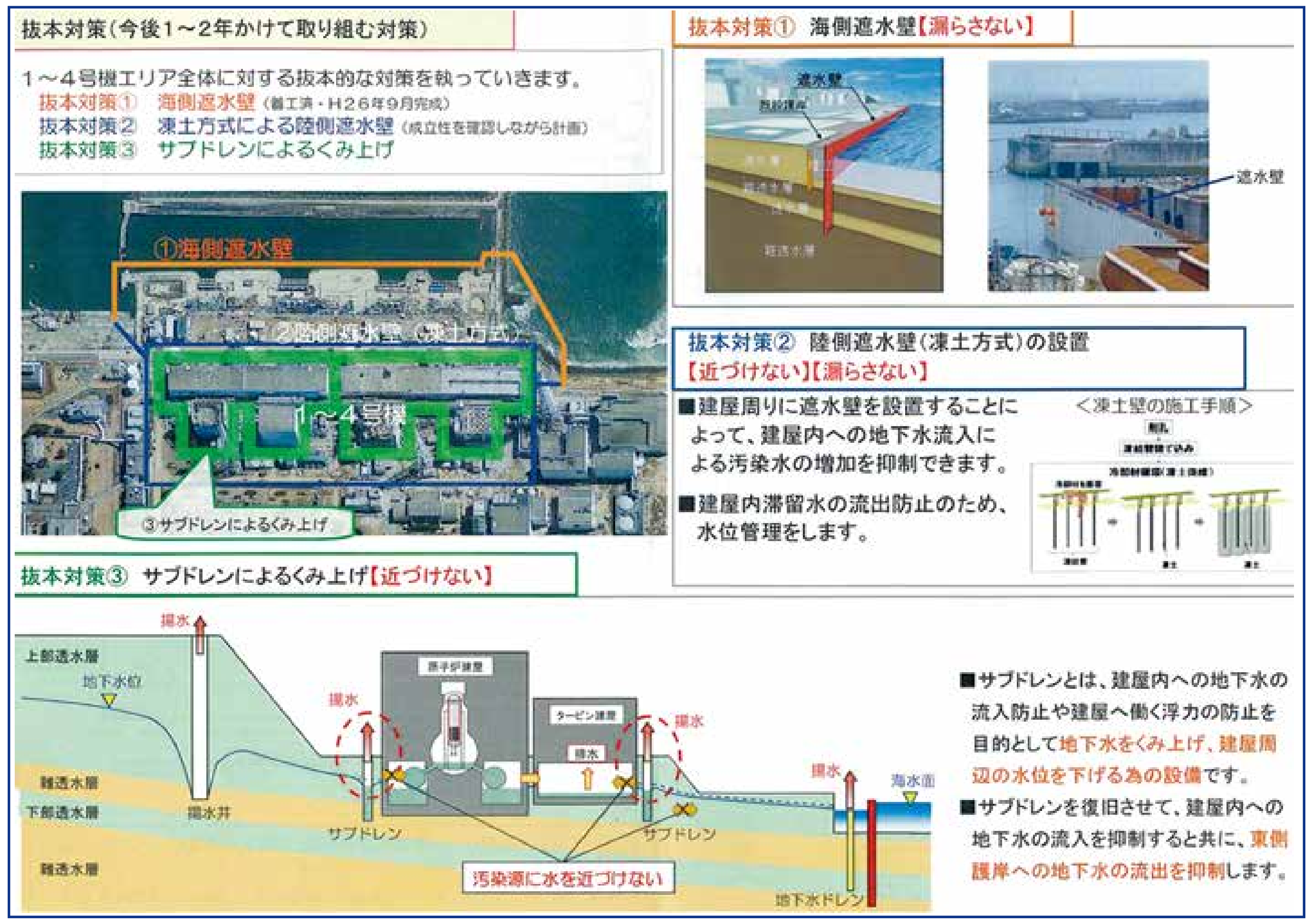
建屋カバー　使用済燃料プール　原子炉建屋　格納容器　原子炉圧力容器　燃料デブリ　トーラス室　圧力抑制室　滞留水　注水　クローラクレーン　構台　燃料取り出し用カバー鉄骨

1号機　2号機　3号機　4号機

※複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示　8月2日5:00現在

		1号機	2号機	3号機	4号機
原子炉	圧力容器下部温度	30.3℃	41.8℃	40.5℃	燃料なし
	格納容器内温度	31.2℃	42.2℃	38.9℃	
燃料プール		27.5℃	27.6℃	26.7℃	36℃

4



抜本対策（今後1～2年かけて取り組む対策）

1～4号機エリア全体に対する抜本的な対策を執っていきます。
抜本対策①　海側遮水壁（着工済・H26年9月完成）
抜本対策②　凍土方式による陸側遮水壁（成立性を確認しながら計画）
抜本対策③　サブドレンによるくみ上げ

①海側遮水壁　②陸側遮水壁（凍土方式）　1～4号機　③サブドレンによるくみ上げ

抜本対策①　海側遮水壁【漏らさない】

遮水壁

抜本対策②　陸側遮水壁（凍土方式）の設置
【近づけない】【漏らさない】

■建屋周りに遮水壁を設置することによって、建屋内への地下水流入による汚染水の増加を抑制できます。

■建屋内滞留水の流出防止のため、水位管理をします。

＜凍土壁の施工手順＞

抜本対策③　サブドレンによるくみ上げ【近づけない】

揚水　上部透水層　地下水位　難透水層　下部透水層　揚水井　原子炉建屋　タービン建屋　排水　サブドレン　海水面　地下水ドレン　汚染源に水を近づけない

■サブドレンとは、建屋内への地下水の流入防止や建屋へ働く浮力の防止を目的として地下水をくみ上げ、建屋周辺の水位を下げる為の設備です。

■サブドレンを復旧させて、建屋内への地下水の流入を抑制すると共に、東側護岸への地下水の流出を抑制します。

川内村で復興取組を伺う

警戒区域内はまだ津波跡

浪江町役場

無人の浪江町の街

楢葉町の住宅除染作業中

除染作業廃棄物収集場

廃棄物の袋詰め作業

常磐線は雑草の中

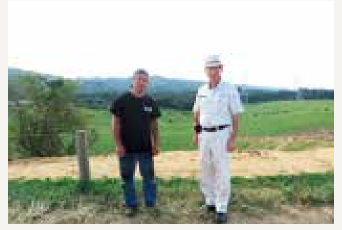
警戒区域検問に静岡県警

大熊町内の民家入口閉鎖

帰宅困難地域墓参り開門

原子力正しい理解で‥？

被ばく牛360頭と被ばく牧草



希望の牧場の吉沢正巳氏

決死の想いで訴え行動

ボランティアたちが応援

災害医療体制の整備について

今年5月「静岡県医療救護計画」の全面改定した。医療救護期間を1週間から1ヵ月まで拡大、DMAT調整本部の設置や新東名高速道路を活用した受入体制の構築を行う。災害医療コーディネーターの配置や地域災害医療対策会議設置を進める。県内25のDMATを今年度末に29チームに拡大、18の災害拠点病院を年度末に21にする。

キャリア教育について

これまで家庭向けのリーフレットや事業所向けの職場体験受入ガイドブック、児童生徒用「静岡県未来マップ」を作成し学校を支援してきた。議員紹介の横須賀市の商工会議所と連携した先進的な取組を市町教育委員会に紹介したり、学校支援地域本部事業のコーディネーターの活用を推進し、地域と連携した取組を支援する。

静岡県のみちづくり計画

H20年度に策定した「静岡県のみちづくり」は13の評価指標の内10の指標で目標を達成した。大震災以降、信頼性の高い道路の必要性が高まっており、内陸フロンティアを拓く取組として防災減災機能を充実・強化させることが重要になっている。

今後、道路の維持更新費用が大幅に見込まれ、真に必要な道路を整備し、今ある道路を効率的に保全し有効に活用する道路マネジメントが必要である。新たな計画は基本理念として「東海新時代を拓くふじのくにのみちづくり」の実現に向け取組む。

志太地域の道路整備

志太中央幹線は志太地域の骨格となる都市計画道路で県では、藤枝、焼津両市と連携し、緊急度の高い区間から優先的に整備を進めてきた。これまで全線11.6kmの内4.8kmを供用しており、天王町～国一の0.5km区間を昨年度から着手しH30年代前半の供用開始予定である。未着手の5.8km区間ははばたき橋供用後の周辺道路交通状況の変化や「静岡県道路交通渋滞対策推進協議会」の議論も踏まえ、優先整備区間や事業主体等を検討していく。

いきいき長寿社会の実現について

県ではこれまでも特別養護老人ホームを始め、高齢者介護施設の整備を積極的に進めてきた。しかし、高齢化の進行で依然として多くの入所希望者がいる。このため、介護基盤緊急整備基金を活用した施設整備を加速し、本年度施設整備補助を約42億円と大幅に増加し、特別養護老人ホームの745床、入所施設1,683床を整備する。

本県の調査で適切な運動や食生活に加えて社会運動に参加している高齢者は元気で長生きである。運動・食生活・社会参加の3つの要素を取入れ、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを推進する。本県開発の「ふじ33プログラム」の普及を図る。

避難所の電源確保について

県では避難所に小型発動発電機を中心に非常用電源の整備を進めてきた。その結果小型発動発電機が、避難所の約7割、自主防災組織の約8割整備された。

避難者の暑さ、寒さ対策として大きな発電機の整備が必要と考え、県として地域のニーズに沿った非常用発電機を確保できるよう大規模地震対策等総合支援事業補助金で支援していく。

バイオマスの利活用について

県ではH23年度に策定した「バイオマス活用推進計画」に基づき、食品廃棄物・生ごみを肥料や飼料として再生利用を進め、メタン発酵によるエネルギー利用にも取組んでいる。

これまで、食品廃棄物をエネルギー利用するための研究、缶詰工場から出るシロップ液をメタン発酵して発電するシステムやコーヒー残差をペレット化してボイラーの燃料とするシステムを開発し実用化された。

7/26　議会傍聴と富士山世界文化遺産の視察会

県庁玄関前にて記念撮影

富士宮市富士山本宮浅間大社